令和8年度熊本地震
DMATコーディネーションチーム派遣

第2部　急性期

国立病院機構岡山医療センター
DMATコーディネーター・災害時小児周産期リエゾン

笹岡あい

活動チーム概要

DMATコーディネーションチーム（チーム構成 1名）

活動期間

8月2日～8月6日（5日間）

活動場所

8月2日～4日 → 県央南DMAT活動拠点本部 ≪被災地域支援班≫で活動
上益城郡（御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町）を担当

8月3日～4日 → 宇城市保健センター支援指揮所で保健師支援を実施

県央南DMAT活動拠点本部　≪被災地域支援班≫

県央南圏域DMAT活動拠点本部
【熊本市、益城町、上益城郡（御船、山都、嘉島、甲佐、美里）宇土市、宇城市】
本部長：佐藤Dr（済生会熊本）

本部ロジ
三村Dr(事務局)，伊東Dr(事務局)，
柴田（事務局），済生会熊本，広島大学

副本部長：岩瀬Dr（山梨県中）

活動指揮
~~080-7751-0450~~
リーダー
：吉田修Dr
（大津市民Hp）
Co村山，Co青木
兵庫医科
落合病院
鳥取日赤
阿南医療センター

物資支援
~~080-7751-0032~~
リーダー
：小崎Dr
（藤沢市民Hp）
Co石井，Co岡田
Co大塚，Co安部
宝塚市立

搬送調整~~080-2682-0894~~
リーダー
：町田Dr（高崎総合医療センター）
Co富岡，Co岩崎，Co
島根大学

病院支援
~~080-7751-0500~~
リーダー
：中村Dr（長浜日赤）
Co　センター
Co大下，Co上村

施設支援
~~080-2682-0827~~
リーダー
：中西Dr
（大阪急性期）
Co名知Dr，Co加藤Ns
神戸大学
土佐市民

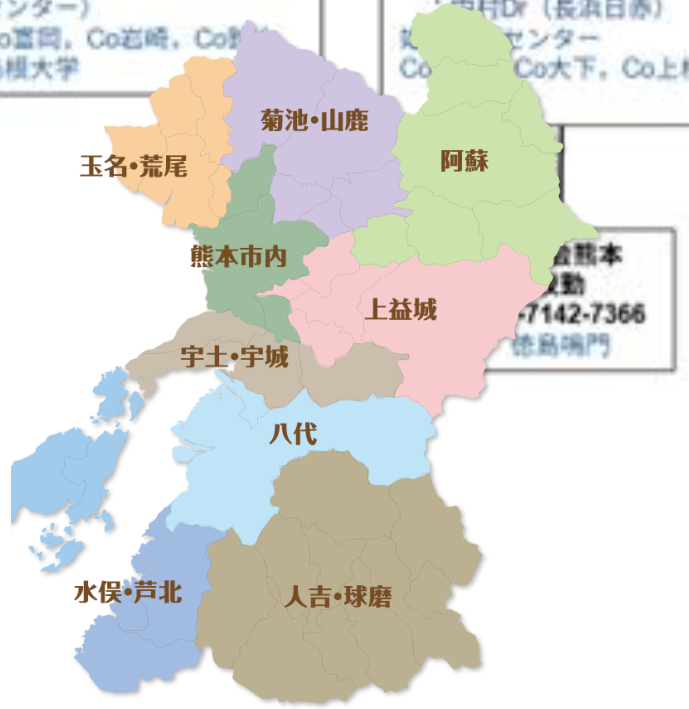
被災地域支援
~~080-2682-0666~~
リーダー
：井上Dr(日医小杉)
吉田隆Co（大阪急性期総合医療センター）
兵庫県災害医療

現場支援

イオンモール熊本
オンコール体制
→8/1　終了

本部　夜間当番
~~090-3918-4769~~
徳島市民病院

夜間オンコール
高崎医療　町田Dr



熊本
動
-7142-7366
徳島鳴門

御船保健所
~~090-8998-3249~~
綾田 DrCo
（山口大学Hp）
~~080-2985-0371~~
豊岡NsCo
（岡山医療センター）

宇城保健所
~~080-8307-5418~~
藤DrCo（岡山日赤）
田(事務局)

御船保健所(上益城郡)支援　活動内容



御船保健所長とミーティング

管轄地域の避難所・診療所・施設の状況確認

必要な調整や支援を確認

↓

本日の活動内容を決定

↓

上益城地区の避難所(7か所)への訪問

各町の保健センターや施設への訪問

必要な支援調整の実施

上益城郡災害保健医療福祉対策会議へ参加

宇城市保健センター支援指揮所

宇城地域保健医療福祉調整本部（宇城広域連合事務局内）本部長：南野所長

本部長補佐：斉藤Dr(岡山赤十字病院)～8/7　・佐藤Dr（済生会熊本病院）

池田（事務局）、赤平～8/5pm

病院支援	被災地域支援	施設支援	物資支援	活動指揮	保健師支援
和氣Dr	中島Dr	高山Dr～8/9	大塚Dr	小見Dr	

- 宇城市保健福祉センター
  - 伊東Dr（事務局）笹岡Nr～8/6
- 宇土市役所
  - 池田Nr(事務局)　家永Dr～8/9pm



保健師支援





保健師さんのお困りごとを聞く → 解決できるよう対応していく

保健師からの依頼：お母さんと赤ちゃんへの支援

生後17日目の赤ちゃんと母親が避難しており、
母親は乳腺炎を発症しているため
診てきてほしいと保健師より依頼あり

↓

避難所を訪問し
母子の体調確認、乳房ケア、育児相談を実施

↓

赤ちゃんの毎日の沐浴を
在中していた災害支援ナースに依頼
困ったときのヘルプ要請方法を伝え、支援終了



保健師からの依頼：医療的ケア児への支援



排泄機能障害にて自己導尿が必要な
医療的ケア児（11歳女児）と連絡がとれていないため
安否確認をしてほしいと保健師より依頼あり

↓

電話応答あり。自宅損傷あり家屋では過ごせない状況だか、
便失禁があったり自己導尿も必要なため
避難所での集団生活が難しく、車中泊をしている

↓

保健センターより市役所に相談。ホテル避難を優先的に
進められるように調整。ホテル避難が決まるまでは
個室避難所に入所できるよう調整し、支援終了

課題・反省点

- 市役所、保健所、保健センターの各部門が平時に担っている役割や災害時に担わなければならない役割をもっと理解していれば、各部門の行政職員とより協働できたのかもしれないと感じた

- 平時の医療体制や物流が再開してきている時期であったため、災害時対応（DMAT派遣・支援物資配給など）で対応するのか、平時の体制で対応してもらうのかの判断が難しく、今の復旧状況を適切に理解した上での対応を意識しないといけないと感じた

- 単独活動が多いため、記録をまとめる時間を確保することが難しく、後方支援である岡山県DMAT調整本部や院内DMATまでタイムリーな活動報告をすることが難しかった

→後方支援への日々の活動報告の内容としては、どの程度のものが必要なのか事前に話し合って決めておく必要があると感じた

今回の活動での気付き → 今後取り組みたいこと

- 保健所、保健センター、市役所等の行政内で行われている災害訓練に参加し、各行政部門が災害時にどのような役割を担う必要があるのかを学ぶ。

- 亜急性期の支援を行う中で連携が必須となるDHEAT・DWAT・DCATなどの災害支援チームが担う役割を学び、早期からの連携を考えられる知識を携える。

- 災害時にも助産師としてのスキルを活かせる現場があることを知ることができた。
  DMATであるが、災害時小児周産期リエゾンでもあり、助産師でもあるという自分の強みを必要とされる場で活かしてもらえるように、自分からも積極的に発信をしていく。

ご清聴ありがとうございました

今後ともよろしくお願いいたします

